

## 文化・芸術

### 「晴山」

1930年、油彩、カンバス  
100.0cm×72.7cm  
(個人蔵)

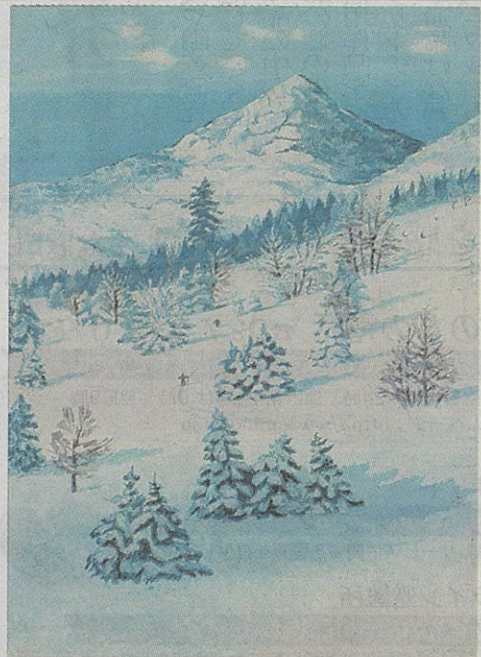
### 海老原喜之助 (1904～70年)

鹿児島生まれの海老原喜之助は19歳でパリに渡り、藤田嗣治(1886～1968年)に師事しました。本作は「エビハラ・ブルー」と称賛された雪景色の一点であり、エコール・ド・パリの新世代として注目された時期の作です。1963年の自選展にも出品された自信作です。

雪の白がまぶしく、空の水色が輝く画面。冷気の感触まで伝わってくるようです。俯瞰(ふかん)でそびえる山々から近景の樹林へと視線が誘われ、師・藤田の影響の下、ブリュッセルにも関心を寄せていた海老原の自然の捉え方がうかがえます。スキーをする人物が点景として小さく配され、広大な自然の広がりが静かに強調されています。

パリ滞在3年後に描かれた本作には、山水画にも通じる東洋的な趣がすでに表れていました。

(小此木)



### 《名画の扉》

大川美術館企画展  
「没後70年記念 茂田井武[ton  
paris]とパリの画家たち」から